奈良県立医科大学 学報

April 2011 vol.36

平成22年度　卒業式

CONTENTS

卒業式学長式辞 …… 1～3
退任挨拶／名誉教授称号授与 …… 4
卒業式・大学院修了式／学長賞・学長特別賞・厳橿賞・華橿賞／大学院博士課程研究奨励賞 …… 5
就任挨拶 …… 6
学事計画 …… 7
クラブ紹介 …… 8
大学生活6年間の軌跡（医学科・寺島さん） …… 9
学位授与／入試結果 …… 10
吉岡学長が西安にて特別講演／平尾教授に顕彰 …… 11
組織改正／人事異動 …… 12
役員、経営審議会、教育研究審議会名簿 …… 13
平成23年度予算について …… 14～15
産学官連携推進センター長就任にあたって …… 16
産学官連携だより …… 17～18
図書館だより …… 19
（仮称）中央手術棟の建設が始まりました! …… 20～21
附属病院から …… 22
看護部から …… 23
地域医療教育フォーラム／看護学科・看護部連携講演会／看護学科研修会 …… 24
地域医療協力施設講演会／医療倫理講習会の開催／平成22年度 特別講演 …… 25
産婦人科学 小林教授、看護学科 臨床病態医学 濱田薫教授らが「Harvard School of Public Health」との共同研究!／第18回 中島佐一学術研究奨励賞決定!／チェンマイ大学との交流 …… 26
レポート／公開講座開催報告 …… 27
メディア掲載情報／下ツ道／広告 …… 28

卒業式式辞　私たちは決して一人ぼっちではない

学長　吉岡　章

医学部医学科第56期生91名、看護学科第4期生93名の諸君、卒業おめでとう。奈良県立医科大学の教職員を代表して心からお祝いを申します。

無事この日を迎えられたのは、何よりも諸君のたゆまぬ勉学と心身の錬磨、そして何より夢に向かっての飽くなき向上心が功を奏したものと大変うれしく思います。加えて、厳しく、かつ温かく指導してくださった教授・教官・職員の方々、さらに愛情に満ちた応援を惜しまなかったご両親・ご家族や友人のお陰であることも忘れないで下さい。

本日、めでたく学長賞・学長特別賞を得た3名の諸君、6年間あるいは4年間、実によくやりました。おめでとう。あなた方の恵まれた能力と、不断の努力、そして豊かな教育とが見事に会合し、融合し合ってこの栄誉に輝きました。厳橿賞、華橿賞を受賞した諸君、学業に加えて、仲間のために、社会のために、スポーツ・文化のために、大きなエネルギーを傾注したその決断と継続は、先輩、同級生、後輩の絶大な支持を得ました。私からも大きな称賛を惜しみません。

3月11日に、マグニチュード9.0の「東日本大震災」が発生しました。2万人を超す犠牲者、一つの町（街）が一気に飲み込まれ跡形が残らないほどの悪魔のような大きな津波、数え切れない家屋の倒壊、コンビナートの大火事、道路や線路の寸断、そして原子力発電所の爆発による放射能漏れなどなど、これがこの世の出来事か、とテレビ画面を正視できないような大惨事となりました。これはもう国家の非常事態であります。

犠牲者の方々とその御家族に改めて心からの追悼の意を表します。また、被災された多くの方々に心からのお見舞いを申し上げます。

マグニチュード9.0は、昨年2月のチリ大地震をもしのぐ世界最大級の地震で、この地震のエネルギーは関東大震災の約30倍、阪神・淡路大震災の約千倍に相当すると言われています。

災害の救援には、地元のみならず全国から自衛隊、警察、消防、都道府県や市町村、企業、ボランティア等の全面的で迅速な協力が始まっています。特に、自らの放射能被曝を顧みず、生命を賭している多くの方々に心からの敬意と感謝の念を表します。負傷者の救命や治療には、全国の主要病院に組織されている700隊ものDMAT（災害派遣医療チーム）が積極的に参加しました。本学からはいち早く、11日当日の夕方5時には、高度救命救急センターの西尾健治准教授をリーダーとする、医師、看護師、薬剤師計5名の第一陣が附属病院救急車で出発しました。そして、翌日12日のお昼には仙台市に入り、国立仙台医療センターと自衛隊駐屯地で活動を開始しました。そして、14日（月）のお昼には初期の目的を果たして無事帰院しました。第二陣は12日に出発し、午後には花巻空港に到着し、活動を開始しました。現地の医療チームと連携して医療活動に参加しました。引続き医療救護チームも次々と派遣予定です。

ここにめでたく卒業した医師・看護師を目指す諸君、諸君は医学・医療を通じて社会に貢献したいという大きな「夢」を持って本学に入学し、本日6年と4年間の勉学を終えました。そして諸君はいよいよ明日から医療現場で、知識と技術と心の技を鍛えるのです。成長した専門家としての諸君が患者さんの生命を救い、心を癒すのです。これは必ずや諸君の大きな「喜び」となるに違いありません。

患者さんはそれが重病であれ、大けがであれ、心の傷であれ、明日からの諸君の努力によって

得た知恵と技を待っています。諸君がその人々を救うのです。それは諸君の人生における最大の「やりがい」となります。「夢、喜び、やりがい」の「3Y」、私が常に諸君に言ってきたこの「3Y」こそが、明日からの諸君の人生の中で目指すべきモットーとなるのです。

わが国が直面している巨大地震による激甚災害では、被害状況が刻々と明らかになり、死傷者も増え続けています。失ったかけがえのない肉親や友人、濁流に消えてしまったふる里の町や山や川。「あー恐ろしい」という恐怖心や「何もかも失ってしまった」という絶望感が大きな困難に立ち向かおうとする勇気を阻害しそうになります。そんな被災地の方々に申し上げます。死にたくなっても、くじけそうになっても、忘れてはいけないことがあります。それは「私たちは決して一人ぼっちではない」ということです。日本中の人々が、世界中の人々が温かい支援を申し出てくれています。韓国や中国、アメリカやヨーロッパをはじめ、世界中から続々と援助隊が、援助物資が届いています。私たちはお互いに助け合うのです。

卒業生諸君、諸君が本学を卒業するこの2011年3月に、わが国で起こった世界最大の巨大地震と大津波のことを決して忘れないで下さい。これからの人生で「もう、しんどい」、「もう、あかん」とくじけそうになっても、忘れてはならないのは「私たちは決して一人ぼっちではない」ということであります。諸君には愛する家族がいます。友人がいます。そして母校である奈良県立医科大学があり、多くの恩師や先輩や後輩がいます。私たちはお互いに助け合うのです。道は必ず拓けます。

卒業生諸君にお礼を申します。母校の大講堂と学長室に2つの時計を卒業記念にと寄贈していただきました。ありがとうございます。

時計は正しい時刻を刻みます。刻一刻と変化する世界の、わが国の、そして奈良医大の未来に向けて時刻を刻みます。刻む「刻」は正しい時刻であると同時にわが国の歴史であり、奈良医大の歴史であり、諸君の歴史を意味します。諸君から贈られた記念の時計が、正しい時刻を刻み、奈良医大がその歴史を誤らぬよう、見守り続けてくれることを信じます。

諸君の長い人生の旅の御無事と、医師として看護師としてのそれぞれの旅の豊かならんことを祈ります。

退任あいさつ

大学在籍43年にて思うこと

寄生虫学　教授　**石坂　重昭**

最終講義を終えて

3年間の病院勤務以外は大学に在籍する生活でありました。大学人として思うことを少し述べたいと思います。日本の大学は明治時代にドイツ流の大学として設置され、真理の追究の場として大学発の真理を守るために、大学の自治が存在していたのですが、1968～1970年代の全国大学闘争により、大学が自治能力を失い、真理を守ることさえできなくなったのです。それに加えて、大学の独立法人化は米国流の社会に役立つ研究を目指し、大学ブランドのハムやワインが売り出されたりして、企業化してしまう有様です。かつて、西郷隆盛が「自分は商人ではない。買った値段でしか家は売らない」と言い張って譲らなかった。この言葉にこそ、日本に西洋から突きつけられた全問題が集約的に表現されていると先人は述べています。もう一度、大学とは何かを考える時が来ていると思う昨今です。学生の気質も随分変わり、最近は知的好奇心が低下し、教養なるものに殆ど興味がなく、役に立つ実学を好む傾向がみられます。明治初期に、ベルツが西洋医学を東京医学校で教えていましたが、西洋人のどのような考え方により西洋医学が成立して来たかを日本人に伝えたかったのですが、日本の医学生は、そのようなことには聞く耳を持たず、どのように診断して、治療するかのみを知りたかったのは今も昔も変わらないようです。ポール-クローデルをして「私がその滅亡するのをどうしても欲しくない一つの民族がある。それは日本人だ。彼らは貧乏だが、しかし彼らは高貴だ」と言わしめた日本人は何処に行ったのでしょうか。では高貴な大学として益々の発展を切に願っております。

石坂先生が名誉教授に

平成23年4月1日付けで石坂重昭先生（寄生虫学）に名誉教授の称号が授与されました。

退任にあたって

中央臨床検査部・輸血部・病院病理部　技師長　**波賀　義正**

本年3月31日をもちまして39年間お世話になりました奈良県立医科大学を定年退職致す事となりました。ふり返れば、昭和47年3月、八木駅に降り立っていらい、39年間、この奈良県立医科大学にお世話になり、また、大過無く勤務できましたことはひとえに皆様方のご高庇の賜、深く感謝申し上げます。

この間、臨床検査一筋に携わってまいりました。思い起こしますと、39年という歳月は長くもあり、短くもあり、就職、結婚、そして子どもができ、孫ができる年となりました。人生を一気に駆けぬけたように感じております。臨床検査の機器が進歩するのに合わせて、私も年齢を重ねて参りました。検査機器ひとつひとつに懐かしい思い出が沢山あります。また温かい上司・先輩・同僚、優れた後輩に恵まれ、自分の力を存分に発揮できる職場と巡り合えたことは、私にとって最高の幸せであったと感慨を新たにしております。私にとって職場は生活の一部であり、仕事はこれまで生きてきた証（あかし）と申しますか、人生そのものでした。皆様とお会いできたことそしてお教えいただいた数々のことは私の大事な宝物です。この職場で得た貴重な数々の思い出はこれからの私の人生にとってきっと心の支えとなってくれることと思います。最後に皆様のご健勝とご活躍を、そして奈良県立医科大学のご発展をお祈り申し上げます。長い間本当にありがとうございました。

参与（知的財産担当）の退任にあたりまして

参与（知的財産担当）　**金﨑　雄三郎**

平成21年4月1日から2年間、参与（知的財産）の辞令をいただき、特許庁系独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPIT）大学知的財産アドバイザーの立場で、本学の産学官連携・知財管理体制構築に参画してまいりました。この間教職員の皆様から心温かいご協力をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

本学は、4月から、産学官連携推進センターが立ち上がり、いよいよ本格的に産学官連携活動を展開する段階になりました。その核となる知的財産も多く創出され、権利化も図られています。これまで大学の使命とされておりました教育と研究に加え、新たな使命としての社会貢献の基盤が堅固になりつつあることを実感しております。教職員の皆様の産学官連携活動と知財管理の重要性に対する深いご理解と熱意の賜物と言えましょう。

私は、4月から東京で勤務することになりますが、個人的には、せめてもう1年在職し、教職員の皆様とともに加速的な活動の展開に参画したいと思っておりました。今後、1300年を超える年月の織りなす自然と豊かな文化にはぐくまれた本学での貴重な経験を糧にし、さらにこの分野での研鑽を積んでまいりたいと思っております。

末筆ながら本学と皆様の益々のご発展を祈念いたしまして退任のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

新たなる旅立ち

～医学部卒業式　平成23年3月15日、大学院修了式　平成23年3月16日～

今年も204名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。（204名：医学科91名、看護学科93名、大学院博士課程14名、同修士課程 6名）
また、式の中で、次の四つの賞の受賞者が発表されました。（敬称略）

◆奈良県立医科大学学長賞　医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を修めた者

医 学 科：菊川　大吾きくかわ　だいご

3月11日、東北地方をまさかの大災害が襲いました。惨状を知らされるたびに言葉を失い、悲しみが込み上げてきます。本来なら祝いの場である卒業式ですが、被災地の方々の心中を想うと、素直に喜ぶことはできません。哀悼の意で胸が一杯になります。それでも、巣立っていく私達のためにこのような式典を開いていただきました皆様には心より感謝いたしております。

壇上で吉岡学長から「おめでとう」と御声を掛けていただいた時に初めて、長かった6年間が走馬燈のように思い出され、きょうが奈良医大生としての最後の日なのだと実感いたしました。

振り返れば、医学部で出される課題は決して楽にこなせる内容ではありませんでした。レポート、試験、臨床実習など、そのときそのときを一生懸命に取り組む以外にありませんでした。毎日行うべき当たり前のことを当たり前に行うことは、頭で考えるほど簡単ではなく、私にとってはそれだけで精一杯でした。

長い学生生活は、決して一人の力で送れるものではありません。周りには、人を思い遣る心を忘れず、私よりずっと真摯に取り組んでいる友もいました。彼らと共に学べたことは、私にとって大きな財産となりました。また、御指導いただきました先生方、学生の要望を聞いていただいている学務課はじめ各課職員の皆様、そして家族には大変感謝しています。まことにありがとうございました。

卒業したら、また初心に戻り一からのスタートです。これからは、一日一日、一期一会、一人の人間として「人」と向き合って生きてゆきたいです。

看護学科：中田　真世なかた　まよ

「夢なき者、理想なし。理想なき者、目標なし。目標なき者、実行なし。実行なき者、成果なし。成果なき者、感動なし。」これは私が恩師から教わった言葉です。

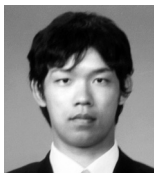
私には、看護師･助産師になるという夢があり、理想とする看護師･助産師像があります。その実現過程の大きな節目である大学入学時に、大学生活における目標を立てました。

この4年間、悩みくじけそうになった時もありましたが、入学時にたてた目標は私の心を前向きにしてくれました。しかし、自分ひとりの力では、今の自分は無いと思っています。苦しい時には、いつも学友たちの一所懸命な姿があり、その姿は私の励みになりました。悩める時には、先生や先輩、同級生、後輩、家族のアドバイスがありました。

大学4年間で培った皆さまとのつながりは一生の宝です。

この度、私は奈良県立医科大学を卒業し、国家資格取得という大きな節目を迎えました。これまで皆さまに支えられたという感謝の気持ちを忘れず、新たな夢をもち、人生の感動を目指して日々精進してまいりたいと思います。

◆奈良県立医科大学学長特別賞　医学教育の課程において極めて優秀な成績を修めた者



医 学 科：孤杉　公啓こすぎ　たかあき

このたびは「学長特別賞」という新たな賞をいただくことになり、大変光栄に存じます。

私がこのような栄誉に浴することができたのは、根気強く勉強を続けることができたからだと思います。ずば抜けて頭がよいわけではありません。要領も特によかったわけではなく、むしろ悪かったと思います。一見無駄に思えるような地道な努力が今の自分の基礎を築いたと確信しています。学生生活も終わり、これからは医師となるわけですが、慢心することなく精進していく所存です。

最後になりましたが、今までお世話になった先生方、先輩、同級生、後輩そして家族に心から感謝致します。皆様の支えがあってこそ、ここまで頑張ることができました。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

◆医学科同窓会厳櫃賞（いつかしょう）、看護学科同窓会華櫃賞（はなかしょう）

①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者（ヒーローオブザクラス）
②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳 櫃 賞：①至田　雄介しだ　ゆうすけ　**②寺島　千晶**てらしま　ちあき　**③松岡　龍太**まつおか　りゅうた
華 櫃 賞：①小泉　勇佑こいずみ　ゆうすけ　**②占部　由依**うらべ　ゆい

◆奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞　甲学位論文申請者のうち、最も優れた論文の申請者

山内　崇平やまうち　たかひら

このたびは研究奨励賞というすばらしい賞に選出していただき光栄に存じます。

私は、在籍しております精神医学講座の岸本年史教授のほかにも、第２解剖学講座の和中明生教授や同教室の先生方から実験手技などをご指導いただきました。これら多くの先生方のおかげで、きょうのこの佳き日を迎えられたものと、深く感謝申し上げます。

受賞研究は、近年精神科臨床で問題となっている「抗精神病薬が引き起こす体重増加の機序」に関連するものです。この分野での研究は「セロトニンなどの受容体」に関するものが散見されますが、本研究では細胞分子レベルからこの機序に迫りました。結果、「視床下部におけるオリゴデンドロサイト前駆細胞及びオリゴデンドロサイトの増加が体重増加に寄与している」という新しい知見を提唱することができました。

今後はさらに本研究を発展させ、新たな治療戦略を開発することで、日常の臨床において患者さんに還元できるよう精進していきたいと思います。

就任挨拶

新任のご挨拶

精神看護学　教授　軸丸　清子（じくまる　きよこ）

この度、平成23年4月1日より、医学部看護学科で精神看護学を担当させていただくことになりました。謹んでご挨拶申し上げます。

私は看護師として、10年余りの経験を積んだ頃、それまでの実践をとおして、看護師にカウンセリング技術が必要であると考えるようになりました。そして、大学でカウンセリングについて学び、看護カウンセラーとして7年間、心身を病む人々の心理的ケアを行ってきました。平成11年からは大学教員として、精神看護学を教授してきました。一方、大学院では、博士前期・後期課程ともに教育学（臨床心理学分野）を専攻し、看護学と臨床心理学の統合とその教育方法について研究してきました。その成果は、博士論文「The new concept of psychotherapeutic nursing」にまとめました。本学では、この構想を実践と教育に活かし、心理療法的な看護が提供できる人材の育成に努めたいと考えています。

成人看護学です

成人看護学　教授　石澤　美保子（いしざわ　みほこ）

平成23年４月１日付けで成人看護学を担当させていただくことになりました。看護師として大学病院で勤務したのち、1992年に米国Cleveland ClinicでET Nursing Programのトレーニングを修了し、帰国後外資系企業で専門職看護師（ETナース）として経験をつみ大学教員となりました。現在は名称が変わり皮膚・排泄ケア認定看護師ですが、これまで約20年ストーマ、褥瘡、創傷管理を専門分野として臨床実践し、教育・研究活動を行ってまいりました。

これから奈良県立医科大学医学部看護学科の教員の名に恥じないように、患者さんの立場にたった成人看護学の新しい知識や技術を学生さんに指導していきたいと考えています。また附属病院の看護師さんとも臨床の場でぜひ多く関わらせていただけることを願っています。

どうぞ皆様の温かいご指導、ご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

新講座「病原体・感染防御医学」担当教授を拝命して

病原体・感染防御医学　教授　吉川　正英（よしかわ　まさひで）

平成23年4月1日付けにて、新講座「病原体・感染防御医学」の担当教授を拝命いたしました。本講座は、旧・寄生虫学講座の実績を継承し発展させるとともに、将来は、現・細菌学教室との統合再編、及び新たに免疫学を含み拡大して再構築が考慮されています。私は、これまで寄生虫学を担当し、寄生虫病もわかる医師の育成を目標にいたしてまいりましたが、新講座が担う教育上の責務は、より広く感染症およびその防御機構のわかる医師の育成であると考えています。「伝統なき創造は盲目的であり、創造なき伝統は空虚である」との哲学者天野貞祐先生の言葉を、20数年前に恩師辻井正先生（本学元学長・名誉教授）より教えていただきました。以来、その語音の良さと内容の深さゆえ記憶に留まっています。医学はまさに伝統を伝え、創造を付加し、新たに伝統を繋ぐ学問です。昭和52年に創設された寄生虫学教室は34年の時を経て消えますが、その伝統を受け継ぎ、関係者および関連機構と協力してこの新しい講座の創生に向けて労を惜しまぬ覚悟で取り組み、新たに病原体・感染防御医学の確立に努めたいと思っています。

どうぞ皆様の温かいご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

研究推進課　参与（知的財産担当）　杉原　長利（すぎはら　ながとし）

本年4月1日付けで、学長より参与（知的財産担当）の委嘱を受けました杉原でございます。

私は、35年間三洋電機の研究開発本部で、主として研究部門の知的財産業務に携わり、企業の側から産官学連携に関与して参りました。

2年前に、特許庁の大学知的財産アドバイザー派遣事業に応募して採用され、公立はこだて未来大学と愛知医科大学で、知的財産管理体制の構築支援をして参りました。

本年度より新たに発足しました広域大学知的財産アドバイザー派遣事業に、奈良医大が「近畿・中部医系大学知的財産管理ネットワーク」の幹事校として応募されて採択されましたので、1年間奈良医大に常駐させて頂き、奈良医大を中心にネットワークに加入されました8大学の知的財産管理体制構築の支援をさせて頂きます。

ご承知の通り、今大学は産学連携を通じた社会貢献を求められており、知的財産はこの産学連携を成功させるために必要な制度であるとの共通認識に立ち、産学連携の成功に向けた知的財産の積極的な活用を支援させて頂きたいと考えておりますので、皆様方の知的財産に対するご協力を宜しくお願い申し上げます。

私たちはこんな1年を送ります　～平成23年度学事計画～

平成23年4月から24年3月までの主な行事やカリキュラムを紹介します。　※諸事情により変更される場合がありますので、ご了承ください。

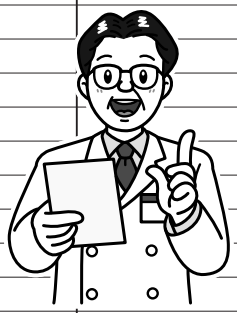
医学科　1学年	
4 / 6（水）	入学式
4 / 7（木）～8（金）	新入生オリエンテーション
4 / 11（月）	授業開始
4 / 25（月）、5 / 2（月）	AED+BLS講習
5 / 15（日）	開学記念日
7 / 4（月）、11（月）	施設見学(学内・院内)
7 / 18（月）～ 9 /11（日）	夏季休業
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
9 / 20（火）～10 / 4（火）	前期定期試験
10 / 28（金）～ 30（日）	大学祭
12 / 26（月）～ 1 / 8（日）	冬季休業
2 / 1（水）～ 2 / 14（火）	後期定期試験
2 / 20（月）～ 3 / 16（金）	医学特別実習(5日間)
2 / 20（月）～ 3 / 16（金）	社会体験実習(3日間)
3 / 26（月）～ 4 / 8（日）	春季休業

医学科　2学年	
4 / 11（月）	授業開始
5 / 15（日）	開学記念日
7 / 18（月）～ 9 / 11（日）	夏季休業
7 / 19（火）～ 9 / 9（金）	救急自動車同乗体験実習(1～2日間)
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
9 / 20（火）～ 10 / 4（火）	前期定期試験(一般)
10 / 28（金）～ 30（日）	大学祭
12 / 26（月）～ 1 / 8（日）	冬季休業
2 / 2（木）、6（月）	後期定期試験（一般）
2 / 21（火）～ 3 / 23（金）	後期定期試験（基礎）
3 / 26（月）～ 4 / 8（日）	春季休業
/	
/	
/	
/	

医学科　3学年	
4 / 11（月）	授業開始
4 / 11（月）～ 7 / 12（火）	コンソーシアム実習
4 / 11（月）～ 7 / 12（火）	地域基盤型学習
4 / 13（水）～ 5 / 12（木）	基礎医学アドバンストコース
5 / 15（日）	開学記念日
7 / 18（月）～ 9 / 11（日）	夏季休業
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
9 / 20（火）	前期定期試験(一般)
9 / 29（木）～ 10 / 27（木）	医学・医療概論
10 / 28（金）～ 30（日）	大学祭
12/13（火）～12/22（木）	SGL
12 / 26（月）～ 1 / 8（日）	冬季休業
1 / 30（月）～ 3 / 23（金）	後期定期試験（基礎）
3 / 26（月）～ 4 / 8（日）	春季休業
/	

医学科　4学年	
4 / 11（月）～ 5 / 25（水）	第1ブロック(授業)
5 / 15（日）	開学記念日
5 / 26（木）～ 6 / 3（金）	第1ブロック(試験)
6 / 6（月）～ 7 / 15（金）	第2ブロック(授業)
7 / 18（月）～ 9 / 11（日）	夏季休業
9 / 12（月）～ 9 / 16（金）	第2ブロック(試験)
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
9 / 20（火）～ 11 / 11（金）	第3ブロック(授業)
10 / 14（金）～12 / 14（水）	基本的臨床手技
10 / 28（金）～ 30（日）	大学祭
11 / 14（月）～11 / 18（金）	社会フィールド系実習（法医学）
11 / 21（月）～ 12 / 2（金）	第3ブロック(試験)
12 / 5（月）～ 14（水）	実践的医療倫理
12 / 17（土）	OSCE
12 / 19（月）～ 2 / 16（木）	研究室配属
12 / 26（月）～ 1 / 8（日）	冬季休業
1 / 5（木）、6（金）	CBT
1 / 30（月）～ 2 / 3（金）	社会フィールド系実習（衛生学・公衆衛生学II）
2 / 17（金）	社会フィールド実習報告
2 / 20（月）～ 22（水）	BSLオリエンテーション
2 / 27（月）～ 3 / 23（金）	BSL第1ブロック
3 / 26（月）～ 4 / 8（日）	春季休業

医学科　5学年	
2 / 28（月）～ 5 / 27（金）	BSL第1ブロック
5 / 15（日）	開学記念日
5 / 30（月）～ 9 / 16（金）	BSL第2ブロック
7 / 25（月）～ 9 / 4（日）	夏季休業
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
9 / 19（月）～ 11 / 25（金）	BSL第3ブロック
10 / 28（金）～ 30（日）	大学祭
11 / 28（月）～ 2 / 17（金）	BSL第4ブロック
12 / 26（月）～ 1 / 8（日）	冬期休業
2 / 20（月）～ 4 / 20（金）	臨床医学アドバンストコース
3 / 26（月）～ 4 / 8（日）	春季休業
/	
/	
/	
/	
/	
/	
/	
/	
/	
/	
/	



医学科　6学年	
2 / 21（月）～ 4 / 22（金）	臨床医学アドバンストコース
4 / 25（月）～ 5 / 6（金）	臨床医学アドバンストコース（試験）
5 / 9（月）～ 7 / 1（金）	クリニカル・クラ～クシップ(4週間)
5 / 9（月）～ 7 / 1（金）	臨床PBL（4週間×2）
5 / 10（火）～ 7 / 8（金）	地域医療体験実習(4日間)
5 / 15（日）	開学記念日
7 / 11（月）～15（金）	PBL症例報告会
9 / 2（金）～ 7（水）	卒業試験（第1ブロック）
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
10 / 3（金）～ 7（金）	卒業試験（第2ブロック）
10 / 28（月）～ 30（日）	大学祭
11 / 2（水）～ 7（月）	卒業試験（第3ブロック）
/ 未定	医師国家試験
3 / 15（木）	卒業式（予定）
/	
/	
/	
/	
/	
/	
/	
/	

看護学科　1学年	
4 / 6（水）	入学式
4 / 7（木）	新入生ガイダンス
4 / 7（木）～ 4 / 8（金）	新入生課外研修
4 / 11（月）	前期授業開始
5 / 15（日）	開学記念日
7 / 15（金）	前期終講
7 / 25（月）～ 8 / 1（月）	前期試験
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
9 / 30（金）	後期授業開始
10 / 28（金）～ 30（日）	大学祭
12 / 23（土）～ 1 / 5（木）	冬季休業
1 / 27（金）	後期終講
2 / 6（月）～ 2 / 10（金）	後期試験
3 / 26（月）～ 4 / 8（日）	春季休業

看護学科　2～4学年	
4 / 11（月）	前期授業開始
5 / 15（日）	開学記念日
7 / 15（金）	前期終講
7 / 25（月）～ 8 / 1（月）	前期試験
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
9 / 30（金）	後期授業開始
10 / 28（金）～ 30（日）	大学祭
12 / 23（土）～ 1 / 5（木）	冬季休業
1 / 27（金）	後期終講
2 / 6（月）～ 2 / 10（金）	後期試験
/ 未定	助産師国家試験
/ 未定	保健師国家試験
/ 未定	看護師国家試験
3 / 15（木）	卒業式（予定）
3 / 26（月）～ 4 / 8（日）	春季休業

看護学科　編入3～4学年	
4 / 6（水）	入学式（編入3年）
4 / 7（木）	新入生ガイダンス
4 / 7（木）～ 4 / 8（金）	新入生課外研修
4 / 11（月）	前期授業開始
5 / 15（日）	開学記念日
7 / 15（金）	前期終講
7 / 25（月）～ 8 / 1（月）	前期試験
9 / 22（木）	解剖慰霊祭
9 / 30（金）	後期授業開始
10 / 28（金）～ 30（日）	大学祭
12 / 23（土）～ 1 / 5（木）	冬季休業
1 / 27（金）	後期終講
2 / 6（月）～ 2 / 10（金）	後期試験
3 / 15（木）	卒業式（予定）
3 / 26（月）～ 4 / 8（日）	春季休業

連載　クラブ紹介

本学の学生は、勉強だけをしているわけではありません。
多くの学生は、文化系12部、体育系24部のうちのいずれかのクラブに所属しています。そして、心身を鍛え、交友を深め、青春を謳歌しています。
さて第4回のクラブ紹介は、アンサンブル部と弓道部です。

アンサンブル部
We love Ensemble!

部　　員:18名
顧　　問:福井　博（第三内科学教授）
主　　将:吉原　真吾（3年）
活動内容:室内管弦楽団
練 習 日:毎週水曜日･金曜日午後5時～8時

我らがアンサンブル部は楽器を愛してやまない者の集まりです。熟練の猛者あり、大学から始めた初心者あり。でもそれぞれが演奏会という共通の目標に向かって練習に励んでいます。
演奏する楽器はヴァイオリン、ヴィオラ、そしてチェロの三つ。室内楽の王道ですので、部内で合奏もできます。かく申す私（吉原）も弦楽合奏にあこがれて門をたたいた一人です。
活動の中心は年2回、春と秋の定期演奏会です。秋の会は今年で36回目。まだ定期的に開催していなかった時代を含めるとその歴史は40年以上になります。部を作り上げてこられたOB・OGの先輩方は本当に熱い。オーケストラと呼ぶにはあまりにコンパクトな楽団ですが、それでも毎年演奏会を開催できるのはそんな方々のお力添えあってのこと。また、演奏会には多数の音楽家の先生のご協力も頂いています。本当に頭が下がる思いです。
当部は1～6年生全員で18名という、こじんまりしたサイズのおかげか、みんな実に仲が良いです。個人的にはこのことも室内楽らしくて好もしく感じます。もちろん部員が増えてほしいという本音もないわけではありませんが。
当部に興味をもっていただいた方はHPをぜひご覧ください。
http://www.eonet.ne.jp/~9876543210/（奈良県立医科大学アンサンブル部）

弓道部
「凛と放つその一本」

部　　員:38名
顧　　問:吉川　公彦(放射線科教授)
主　　将:岩佐　健太郎(4年)
活動内容:弓道
練 習 日:毎週月･水･金曜日の午後5時ごろから

弓の長さは約221cm(7尺3寸)あります。これに弦(つる)を張ります。
矢は、横に腕をまっすぐ伸ばした状態で、首の中心から指先までよりも少し長いぐらいのものを使います。「三ツ矢サイダー」という炭酸飲料の名前どおり、矢には羽が3枚生えています。
そして、的に向かって矢を飛ばします。弓は左手に持ちます。普段私たちが狙う的の大きさは直径が約36cm(1尺2寸)で、同心円状に白黒で色分けされています。ピンときれいに的紙が張られた的に矢が当たると、パンと心地よい音がします。
現在、医学科・看護学科合わせて38名の部員がいます。男子が15名、女子が23名です。
ほとんどの部員が、入学後に弓道を始めました。もちろん中学時代、高校時代からの経験者も。
弓道着姿は、もちろん個人差はありますが、男女を問わず、それは格好いいと思います。
続きはWebで。「奈良医大　弓道部」で検索を。では、失敬。http://nmukyudo.web.fc2.com/

昨年11月、日本学生支援機構「優秀学生顕彰」で大賞を受賞した寺島千晶さん。
詳細は前回の学報（2011年1月vol.35）で紹介したところですが、本学を3月に卒業した彼女から、後輩たちの参考になればとメッセージが寄せられました。

後輩たちへのメッセージ

～大学生活６年間の軌跡～

寺島　千晶

私は大学に入るまでは日本から出たことがなく、入学当初は英語でコミュニケーションを取ることもできませんでした。しかし、先輩方や先生方に誘っていただき国際会議に参加したり留学をしたりして海外の友達が増えるにつれ、少しずつ会話ができるようになっていきました。海外を旅する時に各地の友達が迎えてくれたり、日本にいても遊びに来てくれたりするのはとても楽しいものです。自分自身はまだまだこれからも語学力は伸ばしていかなければと思っていますが、時間のある学生の間にじっくりと語学の勉強に取り組み、世界の様々な国の友達と時間を忘れて語り合えたことで大変視野が広がり、貴重な経験ができました。

1年生から計4回参加したアジア医学生会議（Asian Medical Students' Conference：AMSC）はSocial/Cultural/ Academic Programから成り、毎年約20ヶ国から400人ほどの学生が集まり、非常に密度の濃い1週間を過ごします。5・6年生で、国際医学生連盟（International Federation of Medical Students' Association：IFMSA）などを通しての計3回の留学では、プレゼンテーション技術や医学的知識の習得のほかにも、現地の学生の生活や教育の制度にも触れることができ、得られたものは数えきれないほどです。

語学の習得は、その言語だけを使う環境に行き、そこで生活するのが最も効率的なのでしょうが、私の場合は、普段の学習としてはNHKの初心者用の語学講座から始め、ビジネス英語やiTunesのPodcastを利用していました。これらは手軽で自分のレベルと目的に合わせて選べるのでお勧めです。

学外での活動としては3年生から、心肺蘇生や救急初期対応について多数の大学の学生が集まってお互いに教え合うAdvanced Cardiovascular Life Support（ACLS）のワークショップに参加し、計10回程度インストラクターを務めました。ワークショップは各大学持ち回りで、土日の２日間で行われます。薬剤・気管挿管・除細動など一つ一つの項目についての工夫の凝らされた講義と、体を動かしシナリオにそって手技を身に付ける実技の練習とで構成されています。一参加者として参加するだけでなくインストラクターを続けていくなかで、教える技術を学ぶことができ、また全国規模の学生の繋がりができます。大学ごとに参加者の人数制限はありますが、機会をみてぜひ参加してみると良いと思います。

学内での活動としては、３年生の秋から附属図書館への「闘病記文庫」の設置に携わりました。患者さんの視線で書かれた闘病記を読むことの意義は、

① 患者さんにとっては、自分と同じ病気の人のストーリーを参考にできる
② 医療者にとっては、限られた診療時間ではなかなか知り得ない患者さんの本音や感情に触れることができる
③ 健康な人にとっては、病気を持った人達の生活や気持ちを知ることができる

などが挙げられます。

タイトルからだけでは病名を知ることができず、目的の本を見つけられないこともあるので、そんなことのないように、病名ごとに分類にして検索しやすい本棚を作ること、これが闘病記文庫を設置するということです。この件は、附属図書館司書の皆様の温かいご理解、ご協力のおかげで実現しました。医学科生も看護学科生も、低学年では医療のイメージをつかみ、高学年では疾患の理解に役立てるとともに、自分の担当する患者さんの生活や気持ちを配慮するきっかけに利用していただけたら嬉しく思います。

最後になりましたが、大好きな友人達や尊敬する先生方に囲まれて奈良県立医科大学で充実した６年間を過ごすことができ、心から感謝しています。後輩の皆さん、私の活動内容についてご質問やご相談などがあればどうぞ遠慮なく聞いてください。

平成22年度学位授与の状況

次の32名に博士（医学）の学位が授与されました。（甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。）

本審査日　平成２２年　５月１１日（火）　８名

（甲）岡野　永嗣　消化器機能制御医学
山戸　一郎　消化器機能制御医学
（乙）舟岡　宏幸　健康政策医学
植田　剛　消化器・総合外科学
川口　剛史　胸部・心臓血管外科学
青木　勝也　泌尿器科学
田中　優　麻酔科学
森杉　敏明　口腔外科学

本審査日　平成２２年　７月１３日（火）　２名

（乙）岡橋友美子　神経内科学
西屋　克己　小児科学

本審査日　平成２２年１１月　９日（火）　９名

（甲）山内　崇平　精神医学行動神経科学
輪島　大介　脳神経機能制御医学
長田　陽子　循環機能制御医学
松村　善昭　泌尿器・男性機能制御医学
柳生　貴裕　口腔・顎顔面機能制御医学
清水　直樹　耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
（乙）岡山　悟志　内科学Ⅰ
小坂　淳　精神医学
雄谷　剛士　泌尿器科学

本審査日　平成２３年　３月　８日（火）　１３名

（甲）王　文超　精神医学行動神経科学
荻原　建一　発達・成育医学
竹田　知広　発達・成育医学
田崎　正人　呼吸器病態制御医学
桐山　敬生　遺伝情報病態学
野田　太一　遺伝子・分子動態学
西尾福真理子　分子・細胞再生医学
佐藤　誠久　運動器再建医学
松森　裕昭　運動器再建医学
（乙）石本　佳之　整形外科学
橋内　智尚　整形外科学
吉田　淳　整形外科学
澤田　将幸　精神医学

次の6名に修士（医科学）の学位が授与されました。

本審査日　平成２３年　３月　８日（火）　６名

川原　勲　生体機能制御機構学
田中みどり　生体機能制御機構学
伊藤　雪絵　健康政策医学
裕浦　一　健康政策医学
萱島　道徳　医用工学
清水　正智　医用工学

平成２３年度入試結果

平成23年度の入学志願者は医学部医学科、看護学科ともほぼ昨年度並みでしたが、医学科113名、看護学科91名の精鋭を迎え入れました。

区分		募集人員	志願者数（A）	受験者数	合格者数（B）	追加合格者数（Bの内数）	入学者数	志願倍率（A/B）	前年度倍率
医学科	推薦（緊急医師確保）	13	46	45	13	0	13	3.5	3.3
	推薦（地域枠）	15	83	45	15	0	15	5.5	8.7
	前期	65	244	209	65	0	65	3.8	3.0
	後期一般	10	153	71	11	1	10	13.9	12.4
	後期地域	10	43	11	10	0	10	4.3	6.7
	小計	113	569	381	114	1	113	5.0	5.1
看護学科	編入学一般	5	27	27	13	8	5	2.1	2.4
	編入学地域	10	15	14	7	0	6	2.1	1.4
	推薦	25	62	62	25	0	25	2.5	2.0
	社会人	5	21	18	5	0	5	4.2	3.8
	前期	40	112	108	42	2	40	2.7	3.1
	後期地域	10	92	50	10	0	10	9.2	6.3
	小計	95	329	279	102	10	91	3.2	3.0
医学部	合計	208	898	660	216	11	204	4.2	4.1

平成23年度大学院医学研究科博士課程の入学者数は32名で定員の8割となり、在学者数においても5割を超える状況となりました。また社会人の入学者が半数を占めています。修士課程の入学者は定員を充足しており、社会人が2/3を占めています。

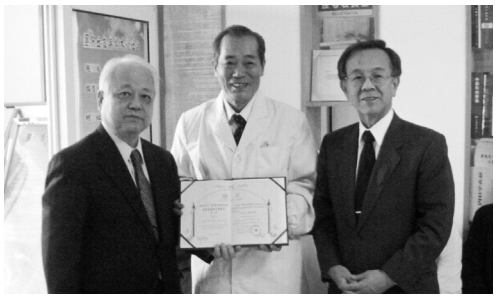
区分	募集人員		志願者数（A）	受験者数	合格者数（B）	入学者数	志願倍率（A/B）	前年度倍率
大学院医学研究科博士課程	40	1次	7	7	7	7	1.0	1.2
		（内社会人）	（3）	（3）	（3）	（3）	（1.0）	（1.5）
		2次	26	25	25	25	1.0	1.0
		（内社会人）	（14）	（14）	（14）	（14）	（1.0）	（1.0）
		合計	33	32	32	32	1.0	1.1
		（内社会人）	（17）	（17）	（17）	（17）	（1.0）	（1.0）
大学院医学研究科修士課程	5	1次	5	5	5	5	1.0	1.0
		（内社会人）	（3）	（3）	（3）	（3）	1.0	1,0
		2次	5	4	4	4	1.3	1.0
		（内社会人）	（4）	（3）	（3）	（3）	（1.3）	（1.0）
		合計	10	9	9	9	1.1	1.0
		（内社会人）	（7）	（6）	（6）	（6）	（1.2）	（1.0）

吉岡 章学長が西安市にて特別講演

三浦先生御夫妻とホテル玄関で

吉岡 章学長は、秋田大学前学長 三浦 亮先生の御仲介と西安交通大学医学院教授兼陝西医大血液病研究院院長刘陕西先生のお招きにより、平成22年10月14日～17日西安市を訪問しました。西安交通大学医学中心客座（客員）教授及び陝西医大血液病研究院客座教授兼名誉院長に任ぜられ、国際血友病学術講演会においては「血友病」に関する特別講演を行いました。

学長談「中国の血友病診療の水準は一部地域を除き発展途上にあり、講演会では西安交通大学及び関連施設の大勢の医師、看護師、薬剤師、検査技師さん達が熱心に聴講されました。また、血液病研究院では、三浦先生、刘先生と御一緒に血友病の他、血液病患者さんの回診もいたしました。今後、本学小児科（嶋 緑倫教授）を中心とするNara Hemophilia Training Center（WHF認定のわが国唯一のセンター）との連携を推進して参りたい。」


三浦先生　　刘先生　　吉岡学長

「平尾佳彦教授に内視鏡医学研究振興財団顕彰」

泌尿器科学教室の平尾佳彦教授が、平成23年1月29日に内視鏡医学研究振興財団から「内視鏡における膀胱癌・前立腺腺腫切除術、尿路結石治療や腹腔鏡手術の発展・普及および後進育成に貢献した功績」により、平成22年度顕彰が授与されました。今回の顕彰は、平尾教授が日本Endourology・ESWL学会の理事長として我が国の泌尿器科内視鏡医学の発展に貢献されてきたことに加えて、本学の泌尿器科内視鏡診療に関する一連の実績が評価されたものであります。

泌尿器科領域では内視鏡を用いた医療は非常に大きな役割を果たしています。本学では岡島英五郎名誉教授が筋層非浸潤膀胱癌の術後再発を大きく低減させる経尿道的切除術の手法を確立され、今や「奈良医大方式」として高く評価されており、前立腺肥大症も開放被膜下腺腫切除術から経尿道的腺腫核出術へと大きく変化しました。また、尿路結石に対する手術も1984年に経皮的上部尿路結石砕石術を、1986年には経尿道的上部尿路砕石術を本邦で先駆けて導入し、結石に対する開放手術は内視鏡手術により代替されています。さらに1993年には原発性アルドステロン症に対する腹腔鏡手術を行い、現在では腹腔鏡手術は腎摘除術をはじめ多くの泌尿器科疾患の治療に用いられています。より低侵襲な診断・治療は多くの患者さんのニーズに応えるものであり、今後も本学において医工連携を推進して内視鏡医学の一層の発展に寄与することが強く期待されています。

（総務課）

法人の新しい組織

組織の新設

1.「健康管理センター」の新設
・学生及び職員の健康管理を一括して推進

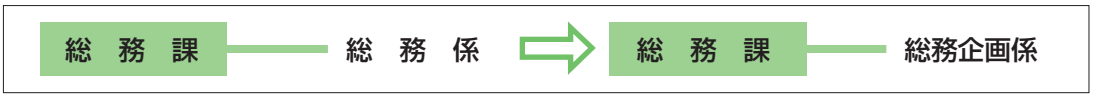
2.「監査室」の新設
・内部監査機能の充実

3.「産学官連携推進センター」の新設
・全学的、横断的な産学官連携の推進体制を整備

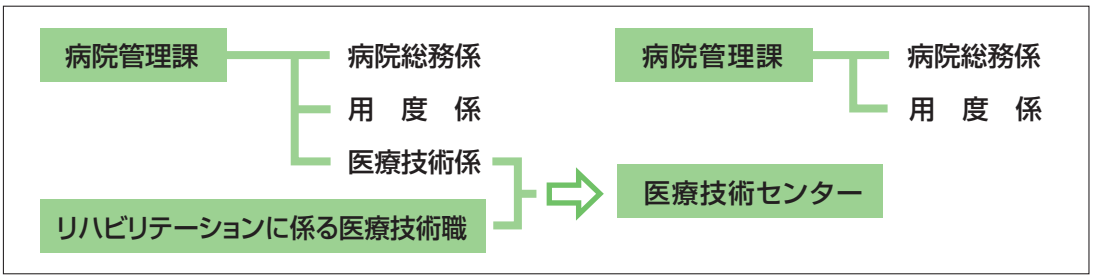
4.「女性研究者支援センター」の新設（※平成２３年２月１日付）
・優れた女性研究者の育成を図り研究や教育活動を一層活性化

組織の再編

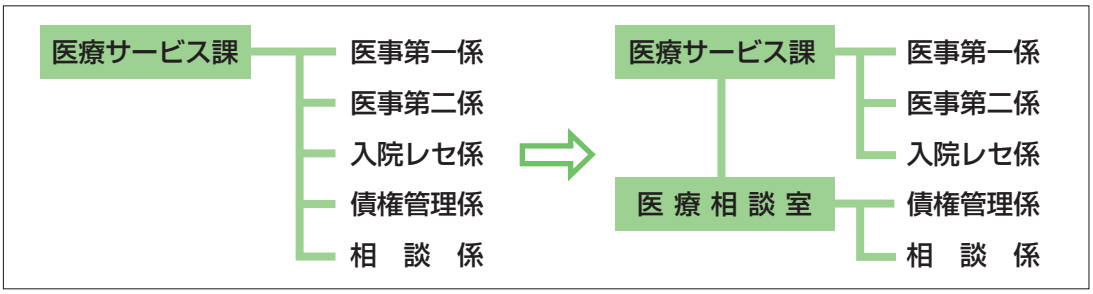
1.法人企画業務への対応強化
・次期中期計画策定の重点推進、法人ホームページのリニューアル、保育所の整備　等



2.「医療技術センター」の設置
・現在の病院管理課医療技術係とリハビリテーションに係る医療技術職を統合し、専門部門化



3.医療サービス課の再編（「医療サービス課」と「医療相談室（課内室）」の設置）
・増加する患者サービス業務への対応



講座名の変更

「寄生虫学」講座→「病原体・感染防御医学」講座

寄附講座の設置

寄附講座「人工関節・骨軟骨再生医学講座」の設置

（総務課）

役員、経営審議会、教育研究審議会名簿

平成23年度の役員名簿、経営審議会及び教育研究審議会委員名簿は次のとおりです。
なお、法人の情報はホームページ（http://www.naramed-u.ac.jp/~aff/johokoukai/）で公開しています。

【役員名簿】

職　名	氏　名	備　考
理事長	吉岡　章	学長
理事	喜多　英二	教育研究担当・医学部長
〃	榊　壽右	医療担当・附属病院長
〃	米田　隆史	総務経営担当
監事	瓜生　英明	
〃	伊藤　一博	公認会計士

【経営審議会委員名簿】

職　名	氏　名	備　考
理事長	吉岡　章	学長
理事	喜多　英二	教育研究担当・医学部長
〃	榊　壽右	医療担当・附属病院長
〃	米田　隆史	総務経営担当
学外委員	相田　俊夫	倉敷中央病院副理事長
〃	大手　信重	前奈良県医師会副会長
〃	川副　浩平	聖路加国際病院 ハートセンターセンター長
〃	白井　克彦	早稲田大学学事顧問 （同大学前総長）
〃	徳永　力雄	関西医科大学常務理事 （同大学名誉教授）
〃	山岡　義生	財団法人日本バプテスト 連盟医療団　理事･顧問

【教育研究審議会委員名簿】

職　名	氏　名	備　考
学長	吉岡　章	学長
副学長	喜多　英二	教育研究担当・医学部長
〃	榊　壽右	医療担当・附属病院長
教育研究上の重要な組織の長	平尾　佳彦	附属図書館長
〃	小西　登	研究部長
〃	飯田　順三	看護学科長
〃	大﨑　茂芳	一般教育部長
〃	羽竹　勝彦	基礎教育部長
〃	古家　仁	臨床教育部長
〃	脇田満里子	看護教育部長
学長が指名する委員	藤本　眞一	教育開発センター教授
学外委員	池田　康夫	早稲田大学理工学術院教授

（敬称略）

（財務企画課）

平成23年度　公立大学法人奈良県立医科大学予算

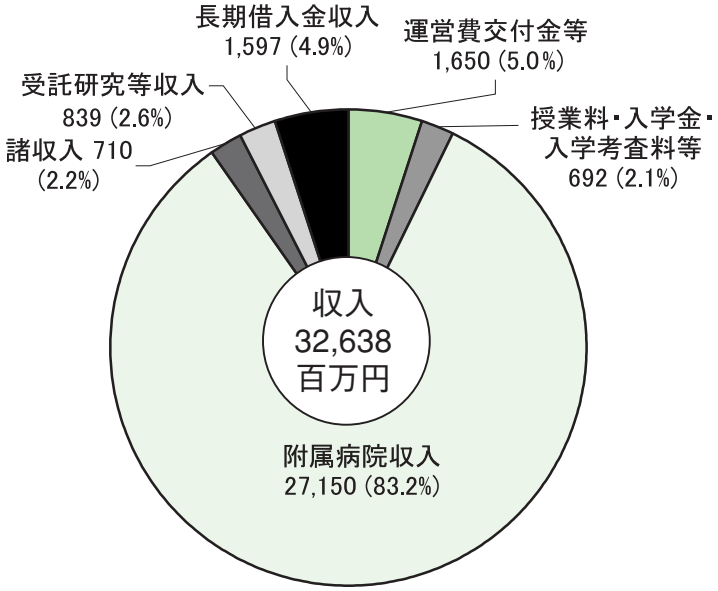
平成23年度予算は、新棟整備や保育所整備など法人の将来を見据えた大規模な取組を引き続き進めていく一方、「7対1」看護体制の継続や診療報酬の改定実績を組み込むことなどにより総額326億3,742万円となります。支出が前年度予算に比べ20億5,564万円の増となりますが、収入が30億3,387万円増加する見込みであることなどから、収支が均衡した予算となりました。

23年度の主な取り組みとしては、早稲田大学との連携強化等により教育内容の充実を図るとともに、産学官連携推進センターや女性研究者支援センターを新設することにより産学官の連携や優れた女性研究者の育成を推進します。また、病院施設の整備により快適な空間づくり、院内環境の改善等の患者アメニティの向上や、臨床研修センターや看護師研修センター等の整備により研修機能の充実を図ります。

法人の更なる発展のため、効果的な投資を行っていく一方で、引き続き経営改善に向けた取り組みを進めて参りますので、職員のみなさんには、それぞれの分野でのご協力をよろしくお願いします。

平成23年度予算の構成比

予算総額：32,637,425千円（対前年比2,055,642千円、6.7%増）



【収入】

運営費交付金
法人の効率的で安定的な運営を確保するため、県から交付されるもの

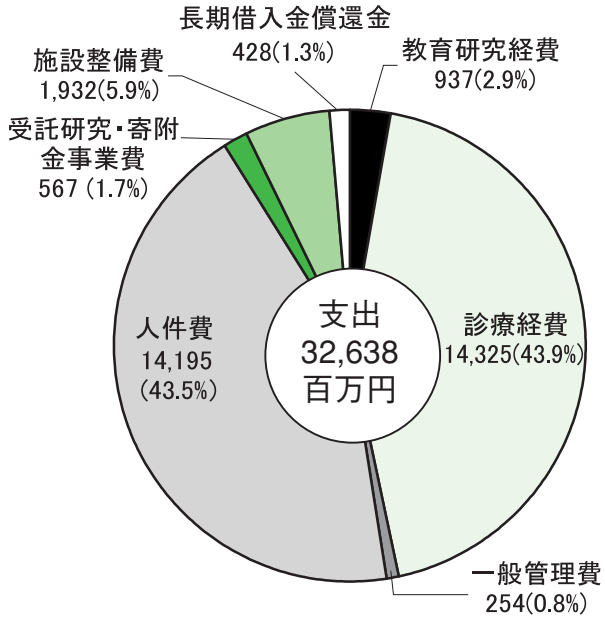
授業料・入学金・入学考査料等
大学、大学院授業料及び入学金など

附属病院収入
診療報酬、診断書手数料など

諸収入
駐車場収入、国庫補助金など

受託研究等収入
外部からの資金

長期借入金収入
施設整備や医療機器の整備に関する借入金



【支出】

教育研究経費
教育関係費、研究関係費、図書館の経費など

診療経費
医薬材料費、医事委託費、機器保守経費など

一般管理費
火災保険、銀行手数料など法人運営に関する経費

受託研究・寄附金事業費
寄附講座、寄附金・受託収入による研究事業経費

施設整備費
新棟整備、医療用備品整備及び大学・病院施設改修など

長期借入金償還金
施設整備や医療機器の整備に関する借入金の返済費用

平成23年度予算の主要事業・新規事業

□法人の将来を見据えた取り組み

○（仮称）中央手術棟整備事業　672,892千円　(H22 628,000千円)
中南和地域における高度医療拠点病院として機能充実を図るため、「（仮称）中央手術棟」を整備

新 新棟整備関連アメニティ整備　24,800千円
緑化など来院者がなごむような病院内の景観等を確保

新 院内保育所整備　99,000千円
老朽化した「なかよし保育園」の建替整備を行い、定員や夜間保育等の拡充を図る

□教育研究の充実

新 看護学科大学院修士課程開設準備　23,000千円
H24年度看護学科大学院修士課程設置をめざし、施設設備などの整備に必要な経費を計上

新 授業料減免制度の導入　12,056千円
経済的に困窮した学生を支援するため、授業料減免制度を導入（運営費交付金で財源措置）

新 早稲田大学連携推進事業　2,000千円
本学のレベルアップを図るため、早稲田大学との連携を推進するための経費を計上

○ 地域医療学講座事業　75,000千円　(H22 80,000千円)
県からの交付金を財源に、地域医療に関する研究を行う講座を設置

新 大学ホームページ再構築事業　10,000千円
法人の情報ネットワークの環境改善のため、大学ホームページや教務事務システム等に関する検討を行い、一部再構築

○ 産学官連携の推進　17,898千円　(H22 10,117千円)
産学官連携推進センターを設置し、産学官連携に積極的に取り組む

□医師・看護師の確保、職員の資質向上等

○ 看護師等の確保対策　52,456千円　(H22 39,098千円)
看護学校訪問や看護職員専用宿舎の確保など、看護師確保に向けた取組を継続

新 健康管理の充実　17,557千円
学生及び教職員の健康診断等を一元的に管理する健康管理センターを設置

新 臨床研修医の処遇改善
新たに住居手当、通勤手当を支給

□病院機能の充実、経営改善の推進及び患者サービスの向上

○「7：1」看護体制の継続
特定機能病院にふさわしい看護体制を実現

新 病院経営分析事業　10,000千円
専門業者からの助言などにより、現状に即した適切な診療科別収支を作成し、病院の経営分析に活用

新 臨床研修センター・看護師研修センター等整備　256,700千円
看護師宿舎の内部活用などにより、看護師研修センターや臨床研修センターを整備・充実

○ 医療用備品の整備　728,000千円　(H22 650,000千円)
県からの長期借入金やリース契約などを活用し、総額10億円の医療用備品整備枠を確保

○ 患者アメニティ向上事業　34,000千円　(H22 76,000千円)
患者等が利用する病院施設等整備により、院内環境の改善などアメニティ向上を図る

産学官連携推進センター長就任にあたって

産学官連携推進センター長　小 西　　登

この度、産学官連携推進センター長を務めさせていただくことになりました。

本学の理念に「医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与すること」とありますが、これは国内外の共同研究並びに産学官連携を通して医療をはじめとする産業への貢献を意味しています。これを具現化する本学の体制として産学官連携推進センターが整備されました。

2004年の国立大学法人化を契機として、多くの大学では知的財産部門が既に設置され、産学官の推進とともに、今や知的財産活動も第2ステージである「戦略的知的財産活動」へと向かっているところです。本学は余力の小さい単科大学であるため、国立大学のような立派な産学官連携推進・知財管理体制を構築することは到底かないませんが、本学の教職員・研究者の努力により生み出された貴重な研究成果を論文発表による社会還元だけではなく、産業に利用可能な成果として保護・活用し、社会に貢献できるように、この産学官連携推進センターを機能させていければと考えているところです。

また、幸いなことに昨年度末をもって終了した大学知的財産アドバイザー派遣の後継事業として広域大学知的財産アドバイザー（杉原参与）の派遣が決定されました。学内外の力を結集して産学官連携活動に取り組めるよう、教職員皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

私たちは、地域経済の活性化に寄与するため、コンベンションの誘致・支援をしています。

奈良県新公会堂

奈良県新公会堂『能楽ホール』

奈良県文化会館

なら100年会館

ご支援内容一覧

- 地域情報の提供
- 看板作成費用の助成
- ボランティアの派遣
- 財政支援
- ビニールバッグの無料提供
- 観光パンフレット、記念品の無料提供

奈良らしいアトラクションや地元業者（ケータリング・旅行社等）のご紹介もしております。
お気軽にお問い合わせくださいませ。

一般財団法人
奈良県ビジターズビューロー
Nara Visitors Bureau
TEL：0742-26-7700（直通）
E-mail：info-ntf@nara-kankou.or.jp
http://www.nara-kankou.or.jp/

広告

産学官連携だより

平成22年度産学官連携実績報告

(独)工業所有権情報･研修館（INPIT）より派遣2年目を迎えた大学知的財産アドバイザー（金﨑参与）によるご指導のもと、教職員皆様にご協力いただき産学官連携活動に取り組まさせていただきました。日常の業務にお忙しい中ご協力いただきましたこと、3月には東北地方を襲った大震災による支援活動の影響もある中でのご協力、本当にありがとうございました。

平成22年度は、それ以前と比べて発明届の件数が大幅に増加するとともに、研究者の先生方には関西TLO㈱を介した競争的資金の公募申請に積極的に取り組んでいただき、大学全体で2千4百万円を超える外部資金を獲得することが出来ました。産学官連携に取り組むことによる好循環が少しずつ目に見える形になりつつあると担当部署としては手ごたえを感じているところです。

【部門構築】

・産学官連携推進委員会からの提言を受け、平成23年度より新体制として産学官連携推進センター（センター長は小西研究部長）が新たに設置されました。

【管理業務】

・平成22年度より知財マネジメント業務を委託している関西TLO（株）の活用した発明発掘、評価、権利承継、出願を実施した結果。発明届及び大学による特許出願の件数が平成22年度になって大幅に増加しました。（表１）

【表1】

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
発明届（件）	6	5	6	15
出　願（件）	2	2	1	11

・研究推進課の実務担当者（2名）の能力向上を図るため各種研修会、セミナーに参加するとともに知的財産管理技能検定3級を取得、H23年3月に2級を受験しました。

【活用業務】

・平成21年度一次的研究シーズ集を作成。ニーズ情報も収集し、県の産業振興担当課及び中小企業支援センターを介してのマッチング実施。附属病院のニーズによるマッチングで製品化に向けた共同開発を実施中です。

・平成22年度近畿経済産業局にシーズ情報を提供し、新たな情報を加えたシーズ集の作成に取り組んでいます。

・平成22年度科学・技術フェスタin京都、BioJapan2010に本学の研究シーズの出展を行いました。

・大阪商工会議所が主催する次世代医療システム産業化フォーラムにおいて、小林准教授（皮膚科学）が「DNA損傷・修復のアンチエイジング“anti-aging”への応用」、森村助教（法医学）が「法医学領域における新しい薬品と機材の開発」と題してそれぞれ共同開発提案を行いました。

・森研究教授（RI実験施設）が作製された研究試料の提供契約を締結。本学初の研究試料対価収入を得ました。

発明を守る　研究記録用ノートを作成しました
RESEARCH LAB NOTEBOOK【リサーチラボノート】

この度、産学官連携活動の一環として、コクヨが開発したリサーチラボノートに奈良医大ネームを入れて作成しました。弘済団の売店において販売しています。「知的財産権を巡る発明者の特定」、「共同研究などによる成果配分の資料」、「特許などの資産管理」等にご活用ください!!

住居医学の発明案件が報道されました
～室内アレルギーの原因物質　簡易検出キット開発～

住居医学の発明案件（発明者：筏教授、村上講師）が、2010年12月30日付けの日刊工業新聞で報道（写真）されました。本発明案件は、本学が承継、特許出願を行い、関西TLO（株）を介して技術移転に取り組んだ結果、企業へのライセンス契約が成立。本学が直接受けるライセンス収入の第１号となりました。また、村上講師は特許出願後の第19回日本臨床環境医学学術集会において報告を行い、奨励賞を受賞されました。おめでとうございます。

chnology　2010年(平成22年)12月30日　木曜日　12

科学技術・大学

屋内のアレルギー原因物質

簡易検出キット開発

奈良県立医大　穴の数・大きさで評価

奈良県立医科大学の筏義人教授、村上能庸講師はアレルギーを引き起こす原因物質であるアレルゲンを屋内で簡易に検出できるキットを開発した。キットの表面にはあらかじめゼラチンやコラーゲンが薄く塗られており、床などに2～3時間置くだけで、キット表面にあいた穴の数と大きさからアレルゲンの量や有害性を評価できる。キットを安価に作製できる上、ダニ由来やカビ由来などアレルゲンの種類を問わずに一つのキットで検出できる利点がある。工場や病院、福祉施設、家庭などで利用が期待できる。

成果は科学技術振興機構（JST）の事業の一環。キットではたんぱく質分解酵素のプロテアーゼを直接検出する。ダニ由来やカビ由来、花粉由来など室内に存在するさまざまなアレルゲンにはプロテアーゼの働きを併せ持つものが多い。プロテアーゼを直接検出すればアレルゲンの量や有害性を精度よく評価できる。

キットの表面にはゼラチンやコラーゲンを数マイクロメートル（マイクロは100万分の1）の厚さで塗る。この表面にプロテアーゼがくっつくとゼラチンやコラーゲンを加水分解して穴があく。穴は肉眼で

▲キットでは表面にあいた穴の数と大きさからアレルゲンの量や有害性を評価する

※2010年12月30日付け　日刊工業新聞　12面

（図書館）

連載　電子ジャーナルを使いこなそう！　第1回
～ エルゼビア社 サイエンスダイレクト（ScienceDirect）～

学術雑誌の主流は今では電子ジャーナルになっていますが、当館がこれを導入して12年が経過しました。その間、出版社の統合や整理が相次ぎ、そのたびにプラットフォーム（Web上の利用環境）が変更され、利用者は不便を強いられてきました。

そこで今回から、当館で契約している電子ジャーナルについて、皆様に少しでも分かりやすいようにと、プラットフォーム別にご紹介することにしました。

第1回めは、エルゼビア社（以下エ社）の「サイエンスダイレクト（ScienceDirect、以下SD）」です。

SDは、「Brain Research」、「Biochemical and Biophysical Research Communications」など年間100万円を超える高額なものや、「Lancet」、「Cell」などの極めて有名なタイトルなど、2,500誌以上を扱っています。今年度はそのうち個別に70誌と契約しており、内訳は当館分が34誌、教室分が36誌となっています（表1）。

昨年、エ社提供の二次情報データベース「スコーパス（Scopus）」（当館は未契約）と統合され、一つのプラットフォーム「サイバース（SciVerse）」として新たに発表されました。ただし、SDという名称は引き続き使われているため特に意識していただく必要はありません。

雑誌タイトルから見るためには、当館ホームページ「オンラインジャーナル」でアルファベット順に探せるほか、SDトップページ（http://www.sciencedirect.com/science）左上メニューの「Browse by title」でも同じ方法がとれます。

例えば「Lancet」を見るために「L」を選んだ場合、「L」から始まる雑誌名一覧が表示されます。雑誌名の右側に表示される鍵型アイコンが緑色であれば購読中または過去に購読していたことを示しています。さらに雑誌名を選んだ後、表示される各雑誌ページでは、左側の巻号一覧や右側の目次において、ブック型アイコンが緑色であれば全文を見られることを示しています。購読雑誌であっても発行年によっては見られない場合があるので、ブック型アイコンの色にご注目下さい。

一方、無料の二次情報データベース「PubMed」で検索してヒットしたSD掲載文献は、全文提供を示すアイコンから直接SDの当該文献にリンクしていますが、全文を見られるのは契約しているものに限られます。

なお、SDはID／パスワードを取得すれば、学内で見られる文献に限り学外からでも見ることができます。誓約書を提出していただいた方に個別に発行しますので、担当（鈴木、内線2293）あてお問い合せ下さい。

SDの使い方の詳細は、次の日本語サポートページをご覧下さい。（http://japan.elsevier.com/sdsupport/）

図書館購読タイトル	教室購読タイトル
American Journal of Cardiology	American Journal of Orthodontics & Dentofacial Orthopedics
American Journal of Medicine	American Journal of Kidney Disease
American Journal of Ophthalmology	American Journal of Obstetrics and Gynecology
Annals of Thoracic Surgery, The	American Journal of Pathology, The
Biochemical and Biophysical Research Communications	American Journal of Surgery
Brain Research	Biological Psychiatry
Brain Research Reviews	Brachytherapy
Cell	Cell Stem Cell
Current Biology	Comprehensive Psychiatry
Developmental Cell	Diagnostic Histopathology
DNA Repair	European Journal of Radiology
European Journal of Cancer	Gastroenterology
European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	Gastrointestinal Endoscopy
European Journal of Pharmacology	Human Pathology
European Journal of Vascular and Endovascular Surgery	JACC: Cardiovascular Imaging
Experimental Cell Research	JACC: Cardiovascular Interventions
FEBS Letters	Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry
International Journal of Radiation Oncology Biology Physics	Journal of the American Academy of Dermatology
Journal of Allergy and Clinical Immunology, The	Journal of the American College of Surgeons
Journal of the American College of Cardiology	Journal of Cardiothoracic & Vascular Anesthesia
Journal of Cataract and Refractive Surgery	Journal of Hepatology
Journal of Cranio-Maxillofacial Surgery	Journal of Pediatrics, The
Journal of Oral & Maxillofacial Surgery	Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery
Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery, The	Journal of Reproductive Immunology
Journal of Urology, The	Journal of Vascular and Interventional Radiology
Journal of Vascular Surgery	Neuroimage
Lancet, The	Ophthalmology
Molecular Cell	Placenta
Neuron	Radiotherapy and Oncology
Neuroscience	Respiratory Medicine
Oral Oncology	Seminars in Nuclear Medicine
Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology, and Endodontology	Seminars in Radiation Oncology
Seminars in Hematology	Surgery
Urology	Trends in Immunology
	Trends in Neurosciences
	World Neurosurgery

表1

（財産管理課）

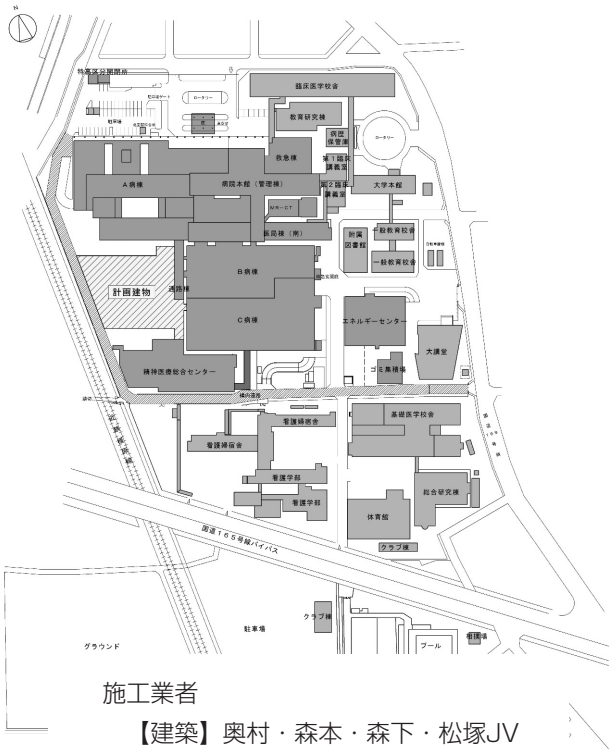
（仮称）中央手術棟の建設が始まりました!

本学附属病院はこれまで、県内医療体制の中核機関として重要な役割を果たしており、また基幹災害医療センターとしても、県内の災害拠点病院の中心に位置付けられています。しかしながら震災等の災害時に大きな役割を担うべき手術室や周産期医療施設は、昭和56年に竣工したA病棟に位置しており、その耐震性能は不十分な面があるとともに施設の老朽化とも相まって、災害時には十分機能が発揮できない恐れがあります。

一方県では、平成21年10月に策定した奈良県地域医療再生計画において、本学附属病院が中南和地域の核となる高度医療拠点病院としてさらなる整備充実を図っていくことを打ち出されました。そこでこの度、県の支援を受け、A病棟にある手術部門や周産期医療部門などを、新しく建設する（仮称）中央手術棟へ移転整備することとなりました。

竣工は約５年後の予定で、その間には医療ニーズの変化や医療技術の進歩なども想定されますが、最先端の医療に対応できる施設として、また患者さんに“癒し”を感じていただける施設として整備に取り組んでいきます。

建物イメージ



建築面積	2,898.99㎡
延床面積	21,162.40㎡
主体構造	鉄骨造
階　　数	地下1階／地上7階
工　　期	H23年3月～H28年3月

施工業者

【建築】奥村・森本・森下・松塚JV

【電気】きんでん・松田電気工業JV

【機械】須賀・精研・新世紀・沢JV

【整備の基本方針】

- 進歩する先端医療に対応可能な汎用手術室の整備
- 総合的ながん治療を進めるため、放射線治療や化学療法等の施設等を集約
- 総合周産期母子医療センター、小児センターやメディカルバースセンターなど、母と子のための機能を集約
- 中央臨床検査部及びリハビリテーション部の充実
- 内装、照明や調度品などのトータルデザインにより、来院者が“癒し”を感じられるようなアメニティ空間の創出

各フロアの整備概要

↑MFICU（イメージ）

プレイルーム（イメージ）→

4階以上のフロアは、
“母と子の病棟”として整備

	部門（病棟名等）	主な整備内容
7階	小児センター	32床（内個室22）、プレイルーム等
6階	メディカルバースセンター、婦人科病棟	バースセンター8床、婦人科35床
5階	総合周産期母子医療センター	MFICU 6床、産科18床、分娩室等
4階	総合周産期母子医療センター	NICU 21床、GCU 30床
3階	中央手術部	手術室12室、モニター室
2階	中央臨床検査部、リハビリテーション部	採血室、微生物検査室、運動療法室等
1階	腫瘍センター、RI部門、緩和ケア外来	外来化学療法26床、患者サロン等
B1階	放射線治療部門、PET-CT	放射線治療室4室、RALS治療室１室

【整備スケジュール】

（H23年）3月22日 着工
既存棟解体、仮設通路等の設置、土壌調査･搬出、埋蔵文化財発掘調査、基礎工事
（H24年）基礎工事、躯体工事、外壁工事、内装仕上工事（B1～2階）
（H25年）Ⅰ期部分竣工･供用開始（ 9月予定）、 Ⅱ期工事部分の既存棟解体、土壌調査
※I期供用開始部門　　放射線治療、腫瘍センター、中央臨床検査部門
（H26年）埋蔵文化財発掘調査、基礎工事、躯体工事
（H27年）躯体工事、外壁工事、内装仕上工事、外構工事
（H28年3月）全体竣工･供用開始

工事期間中は様々なご不便をおかけすることと思いますが、整備の進捗にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

病院管理課

糖尿病センター開設にあたって

糖尿病センター長　　福 井　　博

近年、わが国の耐糖能異常者、糖尿病患者は増加の一途をたどり、奈良県の医療においても糖尿病対策は大きな課題となっております。糖尿病には病初期から適切な指導と治療を加えてその進行をくい止め、全身合併症を予防することが重要ですが、わが国では学会の専門医数が非常に少なく、万全の診療体制をとれないという問題があります。専門医が一般医やコメデイカルスタッフを指導しながら、地域ぐるみで対処することが望まれており、私たちも専門医と一般医の協力体制を確立することが急務ではないかと考えてまいりました。

当院では4月1日から糖尿病センターを発足させ、準備を進めてまいりましたが、5月16日から本格的に診療を開始し、院内外からの糖尿病に関するご紹介をまとめてセンターで受けさせていただくことになります。当面は循環器･腎臓･代謝内科と消化器･内分泌代謝内科において糖尿病診療に携わっている医師（指導医、専門医、一般内科医）が緊密に連携しながら診療にあたるという形をとります。本センターは各科横断的な病院組織であり、糖尿病の診療、研究に興味を持つ医師に広く門戸を開いて行きたいと思っております。専門医に加えて、循環器、腎臓、消化器、内分泌などの専門医師が一緒に診療にあたることからより総合的な糖尿病診療が可能になり、認定看護師、管理栄養士とともに患者さんのトータルケアを目指せるのではないか、そしてまた新たな視点での臨床研究にも着手できるのではないかと期待いたしております。学会指導医の岩野先生とともに臨床研修センター、総合診療科で活躍中の赤井先生に運営の実務をお願いし、皆で進めてまいります。研修医諸君も糖尿病専門医を目標に頑張っていただきたいと思います。当初は外来2診制のささやかな出発であり、思わぬ困難も生じるかもしれませんが、密接な協力のもとに克服し、ともに新たな領域を開いて行きたいと存じます。どうか、皆様方にはご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

糖尿病教室スタッフのみなさん

大型ディスプレイによる情報発信が始まりました。

3月下旬に病院北玄関の再診受付機横に103型相当（60型縦置き3台「縦134㎝×横227㎝」）の大型ディスプレイが設置され、県内の観光情報、県政情報等が放映されています。

放映時間は、8:00～17:00の9時間で、県内の旬な観光情報（4月は桜情報）やイベント情報、健康情報や救急搬送ルールなどの県政情報が鮮やかな映像で、目に飛び込んできます。

また、昨年度に作成した本院の紹介ビデオ（本院の概要や入院案内）が一時間に一回、約20分間、音声付きで流れます。みなさんの知り合いの方が登場されているかも知れません(^o^)。一度、立ち止まってご覧になってください。

今後も、観光情報や県政情報は、随時、更新されますが、病院の情報も積極的に放映していきたいと考えていますので、ご期待ください。

看護部から

西浦聡子師長が第30回医療情報学連合大会学生奨励賞を受賞

附属病院看護部（B病棟8階）西浦聡子師長が第30回医療情報学連合大会において発表された演題が優秀発表と認められ、同大会の学生奨励賞を授与されました。おめでとうございます。

日本医療情報学会は医療情報に関心を持つ全ての研究者及び実務担当者の学術交流の場として、設立された非常に学術的な学会です。

西浦さんは、附属病院で看護師長として勤務しながら、大学院修士課程健康政策医学（今村知明教授）に社会人入学をし、大学院生として学ばれています。

受賞された演題は「無菌治療室増床におけるコスト試算:7対1看護導入によるコスト増に関する検討」です。

受賞者からひとこと

今回、第30回医療情報学連合大会で「学生奨励賞」を受賞させていただきました。

看護師長として、日々看護管理を行いながらいつも疑問に感じ、何とかならないかと思っていた内容で受賞させていただいたことは大変喜ばしく思っています。

この、無菌治療室の改修は病院経営に貢献するだけでなく、患者さんの治療環境を整える･スタッフの働く環境を整えるという看護サービスマネジメントにも影響を及ぼしていると思います。

変化する医療界において看護管理者に求められる役割も変化してきています。組織･スタッフの育成･経営能力･サービスマネジメント･将来の予測といった内容です。それらを学び、病院･患者･スタッフに貢献したいと健康政策医学講座の門をたたきました。なかなか、論文がまとめられず苦労もしましたが、今村知明教授、小川俊夫先生をはじめ正木看護部長、各部門の様々な方々にご指導いただき、本研究をまとめることができました。今回の受賞で、よい経験をさせていただき感謝いたします。今後もより精進していきたいと思います。

活躍する専門看護師

附属病院の専門看護師は、がん看護と地域看護の2つの分野で活躍しています。
新たに認定されたメンバーを紹介します。

がん看護専門看護師　(Oncology Certified Nurse Specialist : OCNS)

梅岡京子（外来2階　放射線治療･核医学科）

以前のわたしは、多くのがん患者さんとかかわる病棟に勤務し、「医療のなかでのがん看護とはなにか?」「患者さんにとって最も良い看護ケアとはなにか?」という悩みを常に抱いていました。臨床経験のなかでは答えを見いだせなかったこれらの悩みを解決するため、看護系大学院修士課程でがん看護学を学び、『わたしのがん看護』の拠り所となるものを得ました。

そして今年度4月に奈良県立医科大学附属病院に再就職し、「がん看護専門看護師」の認定を受けました。現在は、放射線治療室での看護実践を中心におこないながら、がん看護専門看護師としての活動（実践･相談･調整･倫理調整･教育･研究）を少しずつ開始しています。

わたしが看護のうえで大切にしていることは、疾患や治療に伴うつらい症状そして気持ちのゆれや落込みといった苦悩のなかに患者さんが自分なりの意味を見出し生きていくことを支援することです。いつも『苦悩のなかにいるがん患者さんが変化していく可能性を信じること』『がん患者さんが、その人らしく今を生きることを支えること』をわたしの信念として患者さんと向き合っています。

多くの医療者の皆さまとともに『いまできる最良のがん看護（がん医療）』をおこないながら、『将来目指すべき、最良のがん看護（がん医療）』を模索し続けたいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

（学務課）

地域医療教育フォーラム2011

教育開発センター　藤本眞一

平成23年3月5日「地域医療教育フォーラム2011」を開催しました。今回は、平成20年に採択された教育GP最終年次の報告会の意味を兼ねた開催となった。本学喜多英二医学部長の挨拶の後、私が本学の「地域基盤型医療教育コース」について概説した。続いて、筑波大学人間総合科学研究科前野哲博教授から「筑波大学医学部における地域基盤型医療教育」について講演がなされた。筑波大学から水戸共同病院への専任教員の派遣による臨床と卒前学生教育両面における成功の事例は、極めて興味深いと思われた。県の担当者と視察に出かける価値が十分あると思われる。さらに、和歌山県立医科大学教育研究開発センターの羽野卓三教授から「和歌山県立医科大学における教育改革」について紹介していただいた。定員60名から100名への増員の経過とその増員が教育のハード、ソフト両面の改革の促進力となったことがわかり、本学でも参考になる事例が数多く示された。総合討論では、受け入れ施設の確保の問題、診療所や地域基幹病院での教育の問題点、地域での指導医の教育内容の担保、緊急医師確保特別入学試験枠と一般学生に共通した教育カリキュラムの在り方が議論され、最後に地域基盤型医療教育の将来像に討論し、まとめとした。地域診療所医師、県庁職員からも貴重な意見が聞かれた。第1回には、北海道のへき地医療、2回目に長崎の離島医療をテーマとして取り上げて開催したが、今回は、本学にとって最も身近な地方都市地域医療での学生教育の問題が取り上げられ議論された点で、極めて有意義なフォーラムになったと思われる。今後も継続して発展させて行きたい。

より強い協力体制を ～看護学科・看護部連携講演会～

患者さんと一番身近に接する看護師を養成･育成する「看護学科」と「看護部」がお互いに協力し合い、様々な取組を進めていくことはたいへん今日的な課題です。

全国的にも、学内の人事交流を進めたり、新任者研修を合同で実施したり、重要課題を共同で研究するなどの事例が見受けられるようになってきました。このような連携を一層強化するきっかけにしようと、看護学科と看護部が講演会を開催しました。概要は次のとおりです。

◇日　時：平成23年2月9日（水）午後4時45分～6時
◇会　場：看護学校舎　第1合同講義室
◇演　題：大学病院の役割と諸課題
◇講　師：文部科学省高等教育局医学教育課
　　大学病院支援室　専門職　清水多嘉子氏
　　（本学看護専門学校卒（昭和63年3月））
◇参加者：看護学科教員、看護師、事務局職員等

講師の清水氏は、文科省において、全国の大学病院への指導に携わってこられ、看護事業に関する豊富な知識をおもちです。それらを踏まえて、「大学病院の機能、現状、財政状況」に始まって「大学病院に対する行政の支援」、「保健師助産師看護師法の改正」、「チーム医療の推進」に至るまで幅広く情報を提供してくださり、百名近い参加者にとっては大いに参考となる内容でした。

看護学科研修会

平成22年度の寄付･受託資金活用事業の看護学科研修会が1月19日（水）午後4時30分から6時まで厳橿会館3階大ホールにて開催しました。

今年度の講師には、大阪市立大学大学院　看護学研究科教授の城ヶ端初子先生をお招きして「看護理論を指導する」の演題でご講演いただきました。

当日は、学内教職員や看護職等52名の参加者が熱心に聴講し、フロアーから質問などあり看護理論を臨床･教育の場で実践に反映する必要性について認識を深めました。

地域医療協力施設講演会
―地域のクリニック等の医師を対象に講演会を開催―　（学務課）

本年1月27日(木)、学生が地域のクリニック等の臨床現場に出向き直接指導をお願いしている県内の医療機関の先生方を対象に、奈良県立医科大学地域医療協力施設講演会を実施しました。

当日は、本学教育開発センターの藤本教授から「奈良県立医科大学地域基盤型医療教育カリキュラムの現状と将来展望」について講演が行われ、引き続き東京慈恵会医科大学医学教育センター教授　福島　統氏から、「東京慈恵会医科大学における卒前家庭医療実習の試み」と題して、臨床実習は、患者さんに貢献する手段として医療・技術・知識を学ぶ場であることを学生に気づかせることが大切であると、具体的な取組例を示しながら講演が行われました。

吉岡学長はじめ関係教員、クリニック等の先生方が熱心に聴講し、参加者からは、学生との接し方や評価の留意点等について質疑がなされました。

医療倫理講習会の開催　（研究推進課）

3月1日（火）、医の倫理委員会とIRB委員会の共催で医療倫理講習会を開催しました。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針」に規定される“研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。”の一環として開催いたしました。

今後も年1～2回程度開催し、本学研究者の倫理的観点の更なる向上につなげていきたいと思います。

講　師　　新井　盛大　先生
　　ノボノルディスクファーマ(株)
　　開発本部　チーフメディカルオフィサー
　　前東京医科大学臨床検査医学 准教授

講習会　　臨床研究と治験
　　～これからの治験のありかた～

※ 当該指針は下記URLからダウンロードできます。
　　http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html

「医の倫理委員会」から

○医の倫理委員会開催月日
　原則として奇数月の第1火曜日13:30～
　※なお、迅速審査は、従来どおり随時開催です。審査申請書は、遅くとも開催日の約1月前迄に事務局の研究推進課へ提出してください。
○ホームページを開設しましたので、有効に御利用ください。

平成22年度　特 別 講 演　（研究推進課）

本年度も教室の枠を超えた全学的な範疇にわたる内容について、ハイレベルな学外からの情報知識を得ることにより、本学の学術研究のレベルアップを図る目的で実施しました。

担当部門名	一般教育	基礎教育	臨床教育	看護教育	先端医学研究機構	附属病院	奈良医学会
代表者	部長　大﨑　茂芳	部長　羽竹　勝彦	部長　古家　仁	部長　脇田　満里子	機構長　小西　登	病院長　榊　壽右	事務局主任　國安　弘基
計画講座等	化学	第二解剖学	総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門	母性看護・助産学	脳神経システム医科学	附属病院	泌尿器科学
責任者	教授　大﨑　茂芳	教授　和中　明生	教授　高橋　幸博	教授　脇田　満里子	教授　坪井　昭夫	病院長　榊　壽右	教授　平尾　佳彦
講演者	日本テレビ プロデューサー 加藤　幸二郎	理化学研究所 発生・再生化学総合研究センター 多能性肝細胞研究チーム チームリーダー 丹羽　仁史 （本学1989年卒）	県西部浜松医療センター 院長　小林隆夫	大阪市立大学大学院 看護学研究科教授 城ヶ端　初子	早稲田大学理工学術院先端理工学生命医科学科 教授　井上　貴文	Kyung-Hee University Auditor Gooki-Ki KIM	京都大学医学研究科 泌尿器科学講座 教授　小川　修
講演内容	身近な疑問から科学する－世界の果てまでイッテQの裏話－	「分化多能性を規定する転写因子ネットワークの構造」近年のES細胞、iPS細胞に関する日進月歩の知見について、本学学生、教職員にわかりやすく解説していただく。	周術期肺塞栓症に対する薬物予防の展望	「看護理論を指導する」	神経細胞の樹状突起における分子動態	The Current Korean Medicine－めざましい発展を成し遂げている韓国医療の現況－	「泌尿器腫瘍学から学んだこと」の特別講演で、講演者が泌尿器科学を志し、臨床医学の研鑽とともに基礎研究に傾注した過程を具体的に講演して戴く。臨床医が如何にしてScientist-physicianとして世界の泌尿器科腫瘍学のトップに至ったキャリアパスを講演され、医学を志す若手医師に極めて意義のある講演内容である。
実施日	平成22年10月13日	平成22年12月24日	平成23年2月4日 17:30～19:00	平成23年1月19日 16:00～18:00	平成22年12月2日	平成22年10月6日	平成22年7月14日
対象者	学生・教職員	学部学生、大学院生、教職員	医師、基礎研究者、学生	看護学科教員、臨床指導者	学部学生、大学院生、研究者、教職員	医師、研修医、教職員、大学院生、学部学生	学生、教職員、病院医員、臨床研修医等
備考	加藤　幸二郎氏 ・世界の果てまでイッテQプロデューサー ・24時間テレビ総合プロデューサー ・その他、看板プロデュサー	―	―	―	本学と早稲田大学が連携協力して教育研究活動の一層の充実と質の向上を図り、学術の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的とする。	―	―

（研究推進課）

産婦人科学　小林教授、看護学科　臨床病態医学　濱田教授らが「Harvard School of Public Health」との共同研究!

本学産婦人科学講座　小林浩教授、看護学科　臨床病態医学　濱田薫教授らが「Harvard School of Public Health」との共同研究を平成23年1月より開始しました。研究内容は『喘息の病因として環境因子と遺伝的因子が挙げられ、同意を得た妊婦（健常者、喘息患者、喫煙者）の分娩時に臍帯血を採取。Ficoll法により臍帯血リンパ球（樹状細胞）を分離し、DNA抽出後メチル化プロファイルにより喘息発症・感受性に関与するとされ領域を集中的に探索する。これにより、母に喘息のある場合の、児の喘息発症可能性を推察すること。（課題名:臍帯血リンパ球マーカーの同定による新生児の喘息罹患感受性の推測）』という内容です。本研究は平成25年12月31日まで継続されます。

（研究推進課）

第18回　中島佐一学術研究奨励賞決定!

奈良県立医科大学において医学の学術研究に優れた業績をあげた若手教員を対象として募集したところ10件の応募があり、平成23年2月16日に開催された選考委員会で審査した結果、次の3名の方が受賞の栄冠に輝きました。

所　属（職 名）	氏　名	研究テーマ
第二内科学（助 教）	須崎　康恵	気管支喘息慢性化機序の解明と新規治療法の開発
耳鼻咽喉・頭頸部外科学（助 教）	太田　一郎	がんの浸潤・転移に対するEMTおよびMMPの制御
中央臨床検査部（講 師）	水野　麗子	糖尿病合併心筋ハイバネーションにおける心筋微小循環調節機構の解明

（学務課）

チェンマイ大学との交流

平成23年2月14日～2月27日までの14日間、タイのチェンマイ大学医学部から2名(※1)の学生が来学しました。彼女たちは神経内科学、産婦人科学、眼科学、小児科学、皮膚科学、救急医学の6教室で研修するとともに、本学学生とも大いに親睦を深めました。関係教室の先生や職員の皆様方、本当にありがとうございました。

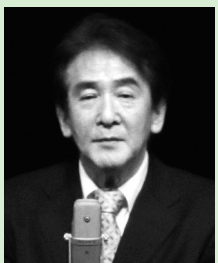
また、本学からは4名の学生(※2)が3月27日～4月5日までの10日間、チェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について見聞を広めました。

以上は、本学とチェンマイ大学との間で締結された学術交流協定に基づくもので、今回の受入・派遣で第12回目となります。今後も学生諸君の積極的な参加を期待します。

※1 Ms.Thaweeporn Treepraphakorn
　　Ms.Tansita Chinkangsadarn
※2 岡本　忠司・角田　真貴・梶本　昂宏・太地　良佑（全員H23年度6年生）

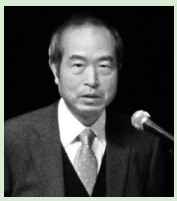
6年生 角田　Tansita　吉岡学長　Thaweeporn　6年生 太地　喜多医学部長

公開講座「くらしと医学」を開催しました（総務課）

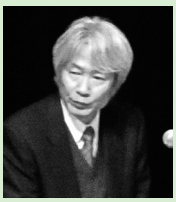


喜多医学部長あいさつ

昨年度後期の公開講座を、2月19日（土）に奈良市の県文化会館国際ホールにて開催しました。平成6年度から始まったこの講座も、今回で26回目となり、今回の会場である奈良県文化会館での開催も17回目となりました。当日は、約550名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。



石坂教授



岡本教授

石田教授

◇喜多英二医学部長あいさつ
◇講演
①石坂重昭寄生虫学教授
　「寄生という驚愕の行動とは　－寄生生物－」
　（座長:岡本康幸中央臨床検査部教授）
②岡本康幸中央臨床検査部教授「脂肪と肥満」
　（座長:石坂重昭寄生虫学教授）
③石田薫臨床病態医学教授「間質性肺炎と肺炎」
　（座長:飯田順三人間発達学教授）

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。また、日ごろの悩みなど、多くの質問もありましたが、演者の適切な回答に納得していました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の方に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。23年度前期は、9月10日（土）県橿原文化会館で、後期は平成24年2月25日（土）県文化会館で開催の予定です。

Report

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。
学内ホームページＵＲＬ（閲覧は学内のみ可能）
http://top.naramed-u.ac.jp/　→　「規程・名簿タブ」
※は、公開ホームページに掲載
http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/　　**（総務課）**

役員会及び教育研究審議会の報告

第35回　役員会（1月5日）
1　教育研究審議会予定案件を承認
（1）教員の退職について
（2）寄附講座教員の選考について
（3）国際交流センター運営委員会委員の選任について
（4）教育情報の公表について
（5）非常勤講師の選考基準について

第13回　教育研究審議会（1月6日）
1　石坂教授（寄生虫学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
2　国際交流センター運営委員会委員として生物学永渕教授の選任を承認
3　平成23年度年度計画（案）について意見聴取
4　基礎医学教育にかかる非常勤講師の選考基準を承認、1月6日以降の選考から適用
5　教員1名の3月31日退職を承認
6　寄附講座「人工関節・骨軟骨再生医学講座」教授として川手健次氏を承認4月1日付けで発令
7　医学科推薦選抜の出願状況を報告

第36回　役員会（1月12日）
1　事務職員採用試験の合格者を決定

第37回　役員会（1月19日）
1　人事評価制度を承認、作業開始
2　教育研究審議会予定案件を承認
（1）発明届について

第38回　役員会（1月26日）
1　共催名義の使用を承認
2　契約規程の一部改正を承認し、1月26日付けで施行
3　教育研究審議会予定案件を承認
（1）チェンマイ大学との学術交流協定の一部改正について
（2）発明届について
4　（仮称）中央手術棟建設工事の入札の実施を承認

第39回　役員会（2月2日）
1　教育研究審議会予定案件を承認
（1）教員の人事について
（2）平成23年度年度計画（案）について
（3）チェンマイ大学との学術交流に関する内規の一部改正（案）について
（4）福建医科大学との学術交流協定覚書（案）等について
（5）女性研究者支援センター規程（案）について
（6）臨床教授等の選考について
（7）大学院学則の一部改正（案）について
2　平成22年度年度計画の取組状況を報告
3　平成22年度決算見込を報告
4　臨床工学技士および事務職員採用試験の合格者を決定

第14回　教育研究審議会（2月3日）
1　小林教授（産婦人科学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
2　石坂教授（寄生虫学）から提出された発明届について、再審議を決定
3　島田講師（病理病態学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
4　教員の人事を承認
5　平成23年度年度計画（案）について意見聴取
6　チェンマイ大学との学術交流協定の一部改正等を承認、両大学の署名日から施行
7　福建医科大学との学術交流協定覚書の締結等を承認、2月3日付けで施行
8　女性研究者支援センターの設置を承認（2月1日付け）
9　臨床教授の選考を承認
10　大学院学則の一部改正を承認、平成24年4月1日付けで施行
11　麻酔科学瓦口助教の海外留学の期間短縮を報告
12　一般入学試験の出願状況を報告

第15回　教育研究審議会（2月8日）
1　成人看護学教授候補者として石澤美保子氏を承認し、役員会へ答申

第40回　役員会（2月9日）
1　成人看護学教授として石澤美保子氏を決定、4月1日付け発令
2　公正入札調査委員会の設置を承認し、2月9日付けで施行
3　教育研究審議会審議案件を承認
（1）発明届について
4　拡大「病原体・感染防御医学講座」検討小委員会の設置を承認、検討を開始

第41回　役員会（2月16日）
1　教育研究審議会審議案件を承認
（1）平成23年度予算（案）について
（2）発明届について
2　附属病院規程の一部改正を承認し、4月1日付けで施行
3　第29回日本医学会総会における本学準備連携委員として地域健康医学・車谷教授、第一内科学・斎藤教授の推薦を決定
4　建築職、機械職採用試験の合格者を決定

第42回　役員会（2月23日）
1　教育研究審議会審議案件を承認
（1）平成23年度予算の概要（案）について
（2）発明届について
（3）看護学科入学定員の変更について
（4）臨床教授等の選考について
2　奈良県監査委員会の監査結果について、「おおむね適正に処理されていると認められた」旨報告
3　理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士採用試験の合格者を決定

第43回役員会（3月2日）
1　教育研究審議会予定案件を承認
（1）名誉教授称号の授与について
（2）教員の人事について
（3）特任教員の人事について
（4）特別研究員（ポスドク）の採用について
（5）教員の海外留学（期間延長）について
（6）女性研究者支援センター運営委員会委員等について
（7）平成23年度年度計画（案）について
（8）平成23年度予算（案）について
（9）学長賞順位決定に関する内規の一部改正（案）について
（10）各種委員会委員の改選について
2　学長賞及び大学院医学研究科博士課程研究奨励賞の授賞者を報告

第16回　教育研究審議会（3月3日）
1　岸本教授（精神医学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
2　石橋講師（泌尿器科学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継しないことを決定
3　西看護主査（C棟5階）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
4　石坂教授（寄生虫学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
5　平成23年度年度計画（案）を承認、経営審議会に提案
6　平成23年度予算（案）を承認、経営審議会に提案
7　石坂教授（寄生虫学）への名誉教授の称号授与を承認
8　教員の人事を承認
9　特任教員の人事を承認
10　特別研究員（ポスドク）の採用を承認
11　精神医学牧之段助教の海外留学（1年間の期間延長）を承認
12　女性研究者支援センター運営委員会委員を選任、3月3日付けで発令
13　看護学科入学定員の変更を承認
14　臨床教授等の選考を決定（新規25名、更新89名、計114名）
15　学長賞順位決定に関する内規の一部改正を承認、3月3日付けで施行
16　各種委員会委員の改選について、委員の選考等を学長に一任することを承認
17　学長賞及び大学院医学研究科博士課程研究奨励賞の授賞者を報告

第44回　役員会（3月9日）
1　修学全部休業規程の一部改正を承認し、4月1日から適用
2　平成22年度決算見込を報告
3　平成23年度役員会等の開催日程を報告
4　管理栄養士採用試験の合格者を決定

第45回　役員会（3月16日）
1　教育研究審議会予定案件を承認
（1）教員の人事について
（2）寄附講座教員の人事について
（3）教員の海外留学について
（4）客員教授の更新について
（5）臨床教授等の承認について
（6）平成23年度講座・教員研究費の配分について
（7）授業料の減免に関する事務処理基準（案）の制定について
2　短期借入金の年度繰越の知事への届出を承認
3　附属病院規程の一部改正を承認し、4月1日付けで施行
4　経営審議会、教育研究審議会予定案件を承認
（1）平成23年度年度計画について

第17回　教育研究審議会（3月17日）
1　教員の人事を承認
2　寄附講座血圧制御学助教尾上健児氏の採用と1年間の海外留学を承認
3　感染制御内科客員教授古西満氏の更新を承認
4　臨床教授等の選考を決定（4月1日付け、新規5名）
5　授業料の減免に関する事務処理基準の制定を承認、4月1日付けで施行
6　平成23年度講座・教員研究費の配分を承認
7　平成23年度教育研究審議会等の開催日程を報告
8　平成22年度決算見込を報告
9　平成23年度年度計画を報告

第18回　教育研究審議会（3月22日）
1　病原体・感染防御医学教授候補者として吉川正英氏を承認し、役員会へ答申
2　各種委員会委員の選任を報告

第46回　役員会（3月23日）
1　病原体・感染防御医学教授として吉川正英氏を決定、4月1日付け発令
2　嘱託職員制度の見直しに伴う就業規則等の改正を承認、4月1日付け施行
3（仮称）中央手術棟整備工事（建築・電気・機械）の入札結果を報告
4　看護職員採用試験の合格者を決定

第47回　役員会（3月30日）
1　臨床検査技師、臨床工学技士の採用試験の実施を決定
2　看護職員採用試験の合格者を決定
3　給与規程等の一部改正を決定、4月1日付けで施行

（総務課）

東日本大震災被災者への義援金についてのご報告

東日本大震災で被災された方々への義援金を募集したところ、これまでに教授親睦会で200万円、教職員で150万円の現金が寄せられました。趣旨にご賛同いただき、ご協力いただきました方々には厚く御礼申し上げます。また昨年度の卒業生からも64万円の義援金が寄せられました。集められた義援金については、過日「日本赤十字社」へお届けをいたしましたこと報告いたします。

募集の締切は終了いたしましたが、本学から派遣している医療支援チームから報告を受けたり、報道による被災地の状況を見たりすると、一層の支援が必要であると痛感する次第です。

今後も引き続き教職員、学生からの義援金を集約し、被災地の一日も早い復旧のためにご協力させて頂きます。

「メディア掲載情報」をお寄せください ～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌･テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を、この「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲　載　概　要
關　匡彦　助教 （救急医学）	読売テレビ系 『ニュース「TEN」』 1月7日（金）	「年末年始における３次救急の医療現場～年末年始も休まず人の命を守るために奮闘する医師の密着取材」と題して、關医師の勤務の状況が放映されました。
小林　浩　教授 （産婦人科学）	読売新聞　朝刊 1月10日（月）	妊婦が巻く腹帯にセンサーや電極を埋め込み、早産など異変の兆候を見つけるハイテク岩田帯の開発により「安心して出産できる医療体制」確立に取り組む小林教授らの活動が紹介されました。

このコーナー「メディア掲載情報」は、皆さんからの提供情報に基づき作成します。自薦、他薦を問いません。
【情報提供先】ファックス等により、右記へお知らせください。法人企画部 総務課 総務企画係 (内線2206) FAX 25-7657
くわしくは、URL:http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/soumuka/03soumu/media_joho.pdf（学内専用）

学報バックナンバーはWebサイト上でもご覧いただけます(http://www.naramed-u.ac.jp/gakuho.htm)

下ツ道（編集後記）

このたびの東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。「災害派遣医療チーム（DMAT）」、「医療救護班」として現地での活動に参加された奈良医大教職員の方々、おつかれさまでした。被災地の一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

医学科、看護学科卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。今後の活躍を期待しています。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

○今村　知明（健康政策医学）
藤本　雅文（物　　理　　学）
笹平　智則（分子病理学）
植村　正人（内科学第三）
坂東　春美（地域看護学）
錦　三恵子（看　　護　　部）
岡　　眞啓（研究推進課）
永井　　淳（学　　務　　課）
奥田　　稔（病院管理課）
前　　和之（総　　務　　課）
池田　真琴（総　　務　　課）
（○印は編集委員長）